

研究成果情報		畜産	9	肉用牛	肥育
新技術・情報名	交雑種去勢牛 (BD) に対する肥育前期飼料のTDN水準			分類	③

1. 成果の内容

1) 技術、情報の内容及び特徴

交雑種去勢牛(黒毛和種♂×ホルスタイン種♀: BD)の肥育において、良質肉を得るための肥育前期飼料の乾物中TDN水準を明らかにした。

- (1) 肥育前期飼料のTDN水準を76%程度まで高めることにより、TDN摂取量が増加し、脂肪交雑が改善され、肉質等級が向上する。
- (2) 肥育前期飼料のTDN水準が70%程度では、TDN摂取量の減少と肥育後期の増体鈍化を招き、肉質等級は向上しない。

2) 技術、情報の適用効果

交雑去勢牛の肉質改善のための、給与飼料設計に関する情報として利用できる。

3) 適用範囲

関連の試験を実施している研究機関及び、技術指導者。

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) 交雑種去勢牛の肥育技術確立の一助となる。
- (2) 飼料給与は、濃厚飼料と粗飼料を完全に混合し、不断給与とする。
- (3) 混合飼料の配合割合の事例は、下記のとおり(原物比:%)。

原料 給与飼料	稲ワラ	ハイキュー7	配合		メイス	大麦 混合糠	庄べん 大麦
			A	B			
前期(TDN70%)	7.4	7.4	43.2	2.5	8.6	30.9	-
前期(TDN76%)	7.6	7.6	28.6	28.6	17.3	10.2	-
後期(TDN80%)	5.0	5.0	13.3	22.5	22.5	6.7	25.0

注) A: 原物中TDN70%、DCP11%、 B: 原物中TDN72%、DCP 9%

2. 具体的データ

表1 発育状況 (平成2～3年)

前-後期 TDN水準(%)	開始 月齢	体重(kg)			後期終了時 肥育度指数
		開始時	前期終了時	後期終了時	
70-80	9.0	323±31	492±6(1.21)	738±45(0.74)	518±34
76-80	8.8	316±24	470±43(1.10)	730±40(0.79)	516±32

注) ①DCP水準: 前期10%・後期9%、粗飼料割合: 前期15%・後期10%
 ②試験期間: 前期は肥育開始後20週間、後期はその後47週間
 ③()内: 期間の日増体量(kg/日)、肥育度指数: 体重/体高×100

表2 飼料摂取状況 (平成2～3年)

前-後期 TDN水準(%)	乾物摂取量(kg/日)			TDN摂取量(kg/日)			飼料効率(kg)		
	前期	後期	全期間	前期	後期	全期間	前期	後期	全期間
70-80	8.42	7.79	7.98	5.90	6.25	6.15	4.88	8.43	6.99
76-80	8.44	7.97	8.11	6.39	6.40	6.40	5.82	8.14	7.28

注) 飼料効率: 1kg増体に要したTDN量

表3 枝肉格付状況 (日格協評価) (平成3年)

TDN 水準(%)	歩留-肉質 等級(頭)	重量(kg,%)			部位別成績(cm ² ,cm)			歩留 基準値
		屠前	枝肉	歩留	u-λ面積	λ ² 厚	皮下脂	
70-80	B-4:1, B-3:3	726	414	57.0	42.5	6.0	2.3	69.6
76-80	B-4:4, B-3:1, C-4:1	708	424	59.9	43.0	8.0	2.1	69.8

脂肪交雑 BFS 等級		肉の色沢 BCS 光沢 等級			肉の締まり・きめ 締まり きめ 等級			脂肪の色沢・質 BFS 光沢・質 等級			単価 (円)
4.3	3.3	4.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.0	4.0	4.0	
5.0	3.8	3.3	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.0	4.0	4.0	1,266

3. その他特記事項

担当部科室名: 畜産研究所 大家畜部 肉用牛研究室

研究担当者名: 後藤 治、中島啓介、大石登志雄、福田憲和

研究課題名 : 交雑種去勢牛の飼料給与技術

期 間 : 平成2年～平成3年

予 算 区 分 : 経常

既発表論文・資料名等: 平成3年度畜産関係試験成績書

取りまとめ責任者名: 後藤 治